



きらり☆北小っ子だより



勝央北小ホームページ
<https://www.town.shoo.lg.jp/site/shookita-ed2754/>



欠席・遅刻は、まなびポケットからお願いします。



3月の定時退庁日は25日（水）です。ご協力をお願い致します。

3学期も折り返しを過ぎ、いよいよ終盤に向かっていきます。子どもたちも少しずつ次の学年をイメージし出す頃かなと思います。

★先生たちの学び（校内研修・研究）

今年は、「児童が自分の思いや考えを伝え合い、学びに向かおうとする授業づくり～学び方を身につけ、個の力を高めるために～」というテーマを掲げ、大学の先生にご指導いただき、主に算数科を中心にして研修や研究を進めてきました。これからも「学び」がしっかり子どもたちへ還元されるように努力していきます。この日は、大学の先生から教えていただいた算数の問題を解いたり、来年に向けての振り返りについて話し合ったりしました。



講師の先生の話聞き、グループでの話し合い

★きらり☆学習発表会～みんな輝いていました！～

今年度は2月という初めての開催時期を試みました。寒さもピークのタイミングになってしまいました。しかし、子どもたちは、2学期の終わりからこの日を目標に取り組んできました。時には乗り越えないといけないハードルに悩んだこともあったと思いますが、発表している姿から、多くの子どもたちがしっかり真正面から取り組み、自信を持って発表しているなあとこの成果を感じられました。ご家族の方の温かい見守りや声かけがあってこそでした。心より感謝いたします。そのおかげで、「頑張ってたかった。」と思える瞬間を、子どもたちは味わうことができました。みんな、輝いていました！これからの生きてくる大切な体験になったと思います。



6年生のリコーダー奏

寒い日の朝から、ご観覧いただきました地域・ご家族の皆様へ改めてお礼申し上げます。

～～～これまでのご尽力に心より感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。～～～

▶4年生の音楽や音楽・文化クラブで琴の指導をしてくださっていて、しばらく前に退かれていた忠政 延枝（ただまさ のぶえ）さんが逝去されました。

ご家族から琴教室で使われていた琴 1面を寄贈していただきました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。また、忠政先生の琴教室のお弟子さんが引き続き琴の指導をしてくださっています。



寄贈していただいた琴

▶長年、読み聞かせに来てくださっていた「かみしばいおじさん」こと、佐古 導郎（さこ みちお）さんが、逝去されました。

読み聞かせのある日には、誰よりも早く学校へ来て、駐車場で学校が開くのを待たれていました。控えめながら、勝央北小学校での読み聞かせを誰よりも楽しみにされていました。いつも、「しっかりお話を聴いてくれるのでうれしい」と言われていて、子どもたちのことが大好きでした。



読み聞かせをする導郎さん

全校児童が集合する機会に事情を伝え、全員で黙祷し、哀悼の意を捧げました。その温かなお人柄を偲び、心より感謝の意を表したいと思います。これまでの多大なるご貢献に深く感謝するとともに、安らかな眠りを心よりお祈り申し上げます。



4年生 福島・駒ヶ嶺小との交流



5年生 福祉体験(車椅子)



2年生 大綱跳びチャレンジ



5年生 南極クラス

★読書の習慣について(学校アンケートから)～その3～

保護者の皆様には、学校アンケートにご協力をいただきありがとうございました。読書に関わる統計を調べ、今回、その3では、保護者の調査結果を紹介します。

https://benesse.jp/berd/special/childdedu/pdf/newsLetter/newsLetter_20251020.pdf

「読書をしない」子どもは 10年前と比べて 1.5倍に増加 スマホ時間と読書時間は逆相関関係があり、読書0分の子は語彙力・読解力が低い傾向

https://benesse.jp/berd/special/childdedu/pdf/newsLetter/newsLetter_20251020.pdf

【調査テーマ】子どもの生活と学習に関する意識と実態(子ども調査)/保護者の子育て・教育に関する意識と実態(保護者調査)… 同一の親子を対象に2015年から継続して追跡する縦断調査

【調査時期】2015～2024年、各年7～9月から

【調査対象】小学1年生から3年生までの保護者、小学4年生から高校3年生までの子どもと保護者
各回とも約2万組の調査モニターに協力を依頼、回収率は以下の通り



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
回収率(%)	76.7	73.7	80.0	79.2	76.3	76.6	75.4	63.9	61.3	61.6

※ベネッセ教育総合研究所が東京大学社会科学研究所と共同調査した結果と分析を抜粋して紹介します。



まず、「①保護者自身の学びとの関連—保護者が学んでいると子どもも読書をする」と分析されています。【図表4-1】では、子どもが読書を「しない」(0分)比率は、「自分の能力を高めるための勉強をすること」が「ある」と答えた保護者の子どもは48.9%と半分以下でした。一方で、「ない」と答えた保護者の子どもは56.0%で、半分以上が読書時間0分でした。

保護者のふだんの学びに対する姿勢と関連がみられるようです。

さらに、「②保護者による働きかけとの関連—保護者が読書の大切さを伝えるほど子ども



は読書をする」と分析されています。【図表4-2】では、子どもが読書を「しない」(0分)比率は、家庭教育の中で「本や新聞を読むこと」の大切さを「伝えている」と答えた保護者の子どもは44.0%で①よりさらに少なくなっていました。一方で、「伝えていない」と答えた保護者の子どもは67.9%が読書時間0分でした。①も大切ですが、保護者が読書の

重要性を伝えることが、より、子どもの読書を促進すると考えられそうです。

今回の分析結果をみると、読書をするなら「集中して読書すること」と「読書の重要性を大人が伝えること」が大切なようです。読書で集中できる時間とは、おそらくストーリーを追いかけて、お話しの中に入り込んで読んでいる時間だと思います。学年や個々の子どもによって違いがあると思いますが、自分自身が子どもの頃の体験では、ストーリーを追いかけて始めた頃から読書の時間はだんだん延びていきました。学校でも集中して読書ができる時間、読書の重要性を伝える機会を確保していきたいと考えています。ご家庭でも、ぜひ取組をよろしく願います。



おわり